

## 夏季オープンキャンパスを開催しました

今年度の夏季オープンキャンパスは、6月24日（土）午前、7月29日（土）午前・午後、8月26日（土）午前の3日間、合計4回開催しました。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため教職員のみで実施していましたが、今年は在校生にも参加してもらいました。

参加者数は総合計465名（保護者含む）と平均100名を超える数のご来校をいただき、特に7～8月は猛暑でしたが各回大盛況の中で終える事ができました。参加者の学年は高校3年生が最も多かったのですが、高校1・2年生の参加者も24%と多く、早めに進路を決めようとする意識の高さを感じました。また在籍されている高校は埼玉県以外にも東京都、千葉県を中心に関東全域、また九州など遠方からの参加者もあり、幅広い地域の皆さまに本校の魅力を伝えることができたのではないかと思います。

実施内容は、学校長挨拶と学校概要説明の後、4グループに分け学生誘導の元、模擬授業と個別相談、校内見学を順に回っていただくこととしました。

模擬授業では、各領域の担当教員が20分という短い時間ではありましたが、参加者が興味を持てるわかりやすい授業を行い大変好評でした。

校内案内では、施設の充実さを見ていただくとともに、実習室では入学後の演習のイメージができるように、高性能ハイブリッドシミュレータを使用したフィジカルアセスメントの体験や看護技術に使用する看護用品を展示し、参加者は真剣に目を輝かせて説明を受けていました。

実施後のアンケートでは多くの方にご回答いただき、「きれいな施設で素晴らしかったです」「丁寧な対応ありがとうございました」「すごくこの学校に興味を持ちました」「学生さんと先生方が連携を取りながら、オープンキャンパスを進めている姿が印象的でした」など概ね高評価をいただきました。その上で、沐浴体験を始め、実技を実際に体験したいという希望も多く聞かれました。感染対策や時間の問題など課題もありますが、よりよいオープンキャンパスになるよう、今後も内容の検討を重ねていきたいと思えます。

参加した在校生は緊張しながらも笑顔で参加者の案内をし、また相談には親身に受け答えしている様子が伺え、頼もしさを感じました。

今後も学生たちと協力しながら、参加者に満足いただけるオープンキャンパスを開催していきたいと思えます。



## 「ホームカミングデイ」を開催しました

7月31日（月）、8月7日（月）、18日（金）、26日（土）の計4日間の日程で、3～6回生を対象に「ホームカミングデイ」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により3～5回生はホームカミングデイの開催が叶わず、4年ぶりに開催することができました。

前年度の卒業生（6回生）へは、卒業から3か月経過した近況報告と学生時代とは異なる悩みなどを共有する場とし、入職後の不安を軽減し自己効力感を高め新人看護師の職場適応を支えること、3～5回生へは、これからも看護師を続けていくために、将来へのビジョンのヒントになることを目的とし、学校に帰ってきてリフレッシュしてもらおうと企画・開催しました。

4日間とも教員たちが「おかえり」と卒業生たちを迎え、久しぶりの仲間との再会に歓声が沸きました。小林佳志子学校長の挨拶から始まり、テーブルに用意された軽食を食べながら歓談し、会の終盤には、一人ずつ近況報告と「これから頑張りたいこと」として決意表明をしてもらいました。

6回生は7月31日（月）に、埼玉医療センター勤務者6名が来校しました。近況報告では、「日々の業務に追われていて、職場に迷惑をかけてしまわないか」や「できないことが多くて落ち込んでしまうこともある」「患者さんの急変や亡くなった時の対応では悲しく辛い思いをした」などの不安な声もありましたが、先輩から認められた、労いの言葉をもらった時には、「もっと頑張ろうと思った」など、新人看護師らしく働いている姿が垣間見られました。

また、3～5回生は8月の3日間で、埼玉医療センター勤務者15名、その他病院勤務者6名が来校しました。近況報告では、「先輩が働きやすい環境を作っていくたい」「認定看護師を取りたい」「子育てと仕事を両立して頑張っていくたい」など、それぞれの環境の中で1年以上頑張ってきた言葉を聞くことができ、頼もしく思いました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、全員で記念撮影を行い、互いの活躍を約束しながら会を終了しました。きっと、それぞれが頑張っている姿を認識し、改めて自分も頑張ろうという機会になったことと思います。

看護師として第一歩を踏み出したばかりの卒業生、看護師としての経験を積んでいる卒業生どちらも、社会人として働く厳しさと看護師として職務を全うする責任の重さを痛感しつつもきらきらと輝いていました。壁にぶつかり不安や悩みを抱える場面が多いであろう新人看護師にとって、実習でお世話になった多くの医師や看護師の先輩がそばにいたことは大変心強いことです。厳しくも温かいご指導をいただきながら、仲間とともに支えあい一人前の看護師として活躍することを我々一同願っております。



## 子ども大学みさとの講義を行いました

8月23日(水)、本校にて埼玉県三郷市内の小学校5・6年生18名の児童を対象とした子ども大学みさと(三郷市生涯学習課主催)の講義と修了式が開催されました。3年ぶりの開催となり、夏季休暇中で静寂な校舎が可愛らしい声と保護者の声で活気づきました。

埼玉県では、子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で子供を育てる仕組みを創るため、県内各所で「子ども大学」を開催しています。「はてな学」「ふるさと学」「生き方学」の3つの分野を柱とし、地域の学校や民間機関が協力し、知的好奇心を刺激する講義や体験活動を行っています。三郷市でも平成28年度より開催されており、本校は当初から協力していますが、地域の認知度も上がり、よい地域貢献活動となっています。

今回も看護専門学校である本校は、ものごとの原理やしぐみを追求する「はてな学」を担当し、看護専門職の仕事を紹介しました。

白衣を着た子どもたちは、実習室に準備した病室に「本当の病院みたい」と驚き、モデル人形の前では「怖い」「カワイイ」と緊張する中、講義が始まりました。なお、子どもたちの様子はZoomで階下の講堂へライブ配信し、保護者に見ていただきました。

内容は3つで構成し、1つ目は成人病棟と小児病棟での看護師体験です。実習室を成人病棟と小児病棟に分け、グループごとに時間で交代しました。成人病棟では車椅子の移送、小児病棟ではベッド上の安全対策を知ることや乳児人形と幼児人形のオムツ交換を行いました。

2つ目は衛生体験です。看護師体験でついた手の汚れをグリッターバッグで確認後、普段通りの手洗いをを行い、再度グリッターバッグで確認すると、汚れが落ちていない事に驚きの喚声が上がりました。

3つ目は座学で、まずは手の汚染をスケッチし手洗いの必要性を自覚してもらいました。そして看護師が見て感じている世界には、ウイルスや細菌がいつも存在しているため、常に手洗いは泡をしっかりと立て手首まで洗っていること。それにより、患者と自分と仲間を感染から守っていること。また、マスクの装着を正しくすることも感染予防になることを話しました。最後の質疑応答では、「看護師さんがコロナになったらどうするんですか」「小さな子への感染防止はどのようにするのか」など感染に対する質問がありました。そして、お友達・家族に手洗いとマスクを必ず伝えますという言葉に、学びを実感することができました。

講義終了後には、修了式が行われ、修了証書を嬉しそうに保護者に見せ、笑顔で話す姿がありました。アンケートでは「ウイルスがついた手の汚れが口に入ることやくしゃみが飛んで鼻から入ることもわかった」「車椅子の速度はゆっくりした方がいい」「看護師さんが手をあんなに意識しているとは思わなかった」「学校で発表したい」などの感想をいただきました。

今回の講義で、数多ある職業の中の「看護師」が認知され、感染予防を意識してくればこんなに嬉しいことはありません。今後も地域・社会貢献につながるこの活動を継続していきたいと思えます。

